課内回覧

平成28年9月

財 政 通 信 No.28

みなさんこんにちは。財政課 2 年目のMです。

4 月の人事異動ではI課長とK副主査が異動となりました。そして新しい財政課長には、財政課の小さな巨人ことO課長補佐が課長に昇格し、新たな課長補佐にはO課長とも付き合いが長いT課長補佐が 6 年振りに財政課に戻ってきました。そしてH主事が新たに財政課に加わりました。

私はといえば、龍ケ崎市役所サッカー部の新入部員が増えたことにより、参加を見送っていた龍ケ崎市のリーグ戦に久し振りに参加し、皆と汗を流しています。

財政課もサッカー部も、最初の頃は連携が取れてない部分もありましたが、少しずつ改善し、最近では、ベテランと若い力が上手く噛み合うようになってきました。

前置きが長くなりましたが、そろそろ本題に入りたいと思います。果たして、平成 27 年度の龍ケ崎市の決算の状況は改善し、良い方向へ進んでいるのでしょうか？

§1 平成 27 年度決算の状況

収支状況の数値は、「地方財政状況調査（決算統計）」で用いられる全国統一の会計区分である普通会計ベースで算出しています。龍ケ崎市では一般会計と障がい児支援サービス事業特別会計を合算し、重複部分を控除したものです。

G員：収支状況がまとまりました。

補佐：平成 27 年度の形式収支（歳入歳出差引額）と実質収支（形式収支－翌年度に繰越すべき財源）は？

G員：形式収支が 15 億 300 万円、実質収支が 13 億 500 万円の黒字です。平成 26 年度に続き 10 億円の大台を超えました。

補佐：財政調整基金にも 2 億円積んでいるんだね。7 年前（平成 20 年度決算）は、歳入不足で 8 億 5,000 万円くらい取り崩していたから、その頃と比べればかなり良好と言えるかな。

係長：基金積立金で言えば、更に、公共施設維持整備基金に 2 億円、義務教育施設整備基金に 1 億円、みらい育成基金に 1 億 4,400 万円を積みました。

土地開発基金や特別会計を加えた全会計での基金残高は、76 億 2,400 万円になり、基金残高が 40 億円を切った平成 20・21 年度のような危機的状況は何とか脱したと言えます。

しかし、県内他市町村と比べても、財政調整基金の残高は決して多くはありません。

また、総合運動公園の建設を控えた平成 12 年度には 100 億円超の基金残高があったことを考えると、まだまだ安心はできません。

§2 歳入の状況

補佐：歳入の状況は？

G員：歳入決算額は 263 億 4,000 万円で、前年度比 10 億 3,500 万円の増となり、過去 10 年間で

最大規模の決算となりました。

一般財源では、地方消費税交付金が 4 億 9,800 万円の増となっています。平成 26 年 4 月に 8%に引き上げられた消費税は、国に納付された後、地方に分配されるので、消費税引き上げが本格的に交付金に反映されるのは、平成 27 年度からになるためです。

地方交付税は、35 億 8,600 万円で、前年度より 7 億 3,700 万円の減です。これは、ごみ処理施設の長寿命化工事分として、平成 26 年度には 8 億 9,200 万円交付された震災復興特別交付税が、平成 27 年度には 2,000 万円と、大きく減額となったことが影響しています。

係長:その他特筆すべきは、ふるさと龍ケ崎応援寄附金が、前年度より 1 億 4,200 万円の大幅増となったことです。

補佐:平成 27 年はふるさと納税ブームだったからね。逆に、龍ケ崎市民が他市町村に寄附した場合は、市民税が減収になるから、諸手を挙げて喜べない部分もあるけど。

係長: 27 年度は、寄附金が市民税減収分よりかなり多いようです。龍ケ崎市独自のお礼の品が評判良いみたいですよ。

補佐:これからも担当課に頑張ってもらわないと。ところで、市の基幹収入である市税は？

G員:市税については、2 億 2,400 万円の減収となり、3 年振りに 100 億円を下回りました。

市民税は、個人、法人共に減となり、1 億 4,600 万円の減収となっています。

補佐:法人市民税は、税率が 14.7%から 12.1%に引き下げられた影響で減になるのは解るけど。

係長:個人市民税は、農業所得や公的年金、株式譲渡所得などが減少しているようです。

補佐:個人所得割は増えるどころか、減ってしまっているのか。

G 員:固定資産税は、3 年に 1 度の評価替えの年のため、5,500 万円の減収となっています。

補佐:評価替えでは、既存の家屋の評価額が減価償却するから、どうしても減収になるよね。

これまでは、評価替え以外の年は新築家屋分で持ち直してきたけど、新築棟数が目に見えて減ってきているから、今後、大幅な増収は難しいかもしれないね。

あと、滞納繰越分は？このところ徴収や滞納処分にかなり力を入れているようだけど。

G員:国保税を除いた市税の滞納繰越分については、徴収率が 50.04%と、県内トップに立ちました。現年分を含めた徴収率は 3.5 ポイント増の 96.6%となり、昨年度の県内 23 位から 9 位へジャンプアップしました。

補佐:担当課の努力の賜物だね。ただ、滞納処分が進むと、調定額が減るから、徴収率は上がっても、滞納繰越分の収入額は減収になってしまう。今後は、現年分、滞納繰越分のバランスのとれた収納対策が必要になってくるのかな。

係長:地方消費税交付金は景気の動向に左右されますし、基幹収入である市税もなかなか増収が見込めないとなると、今後は厳しい状況が続きそうですね。

補佐:どうしたもんじゃろの～。

§3 歳出の状況

補佐:歳出の状況は？

G員:歳出の決算額は、248 億 3,800 万円です。前年度と比較すると、15 億 3,800 万円の増額決算となりました。民生費・衛生費の増額が大きいですね。

補佐:増加した理由は？

G員：民生費は、子ども・子育て支援制度への移行が一番大きな理由です。

補佐：子ども・子育て支援制度？

G員：　これまでバラバラだった、認定こども園、幼稚園、保育所の給付を「施設型給付」として一本化したほか、子ども・子育て支援を拡充する制度です。平成 27 年度から、歳入の国県支出金も含めて、枠組みが大きく変わりました。

　衛生費では、龍ケ崎地方塵芥処理組合負担金の増が大きな要因です。平成 26 年度に震災復興特別交付税の交付対象になった、ごみ処理施設の長寿命化工事の繰越分を平成 27 年度に支払ったものですね。

補佐：公債費は大幅に減っているようだけど？

G員：平成 7・8 年度減税補てん債（借換分）のような、毎年の返済額の大きい起債が平成 26 年度で償還終了したので、前年度より 2 億 4,000 万円の減額となっています。

係長：ちなみに、普通会計の起債残高に、特別会計債やニュータウンの小中学校建設などにかかる債務負担行為、一部事務組合の公債費負担残高などを含めた将来の財政負担の残高は、平成 27 年度末で、418 億円です。

補佐：将来負担残高は、平成 14 年度がピークで、661 億円あったんだよね。第 2 次財政健全化計画の目標だった、平成 21 年度末残高 530 億円を達成して、更に削減しているってことか。

係長：ただ、今後、道の駅整備や（仮称）新学校給食センター整備など大型事業が予定されていますので、これらの事業費によっては、将来の財政負担の残高が増加に転じる可能性大です。

§4　財政指標

補佐：経常収支比率は？

G員：経常収支比率は 90.1%となりました。前年度が 90.4%だったので、0.3 ポイントの改善です。地方消費税交付金の増収などに伴う経常一般財源の増が主な要因です。「龍ケ崎市財政運営の基本指針等に関する条例」で定めている目標値 90.0%以下も目前です。

補佐：平成 20 年度は 98.0%だったから、90.1%なんて、びっくりぽんや。

G員：　公債費負担比率も、14.3%となり、前年度より 1.0 ポイント改善しています。公債費自体の減少に伴い、公債費充当一般財源が減少したことが主な要因です。

補佐：公債費負担比率も、平成 17・18 年度は 17.7%だったから、改善してきているね。

　経常収支比率、公債費負担比率共に、だいぶ県内市平均値に近づいてきたかな。

係長：とはいえ、経常収支比率、公債費負担比率ともに、県内市平均には届いていません。今後も改善に向けて財政健全化の取組みを継続して行く必要があります。

補佐：まじめにコツコツ頑張って、県内平均以上を目指さないと。

§5　健全化判断比率

　健全化判断比率は、「地方公共団体の財政の健全化に関する法律（通称：財政健全化法）に基づいて毎年、算出しているものです。実質赤字比率、連結実質赤字比率、実質公債費比率、将来負担比率を健全化 4 指標と呼んでいます。

補佐：決算統計に続いての作業で大変だっただろうけど、健全化 4 指標の状況はどうだった？

G員：実質赤字比率、連結実質赤字比率ともに算出されませんでした。もっとも、この指標が算出されたら、「龍ケ崎市財政運営基本指針等に関する条例」で早期警戒基準に該当することになりますからね。

実質公債費比率は 5.8%で、前年度の 7.7%から 1.9 ポイントの減です。分母となる標準税収入額等が増加し、分子となる元利償還費金や、一部事務組合の元利償還負担金が減少したことが主な要因です。

補佐：健全化 4 指標って、平成 19 年度から始まったんだよね。その当時、実質公債費比率は、11～12%あったと思うけど。半分くらいに改善したね。あと、将来負担比率は？

G員：将来負担比率は、昨年と同様に一般会計等が負担する将来負担額よりも、将来負担額に充当可能な財源が上回ったため、算出されませんでした。

将来負担額は、地方債現在高やニュータウンの小中学校建設などにかかる債務負担行為支出予定額の減少などにより、減ってきています。

補佐：じぇじぇ。将来負担比率も、平成 19 年度当時は 88.2%と数値が算出されていたんだよね。

係長：将来負担額が増えれば、また直ぐに数値が算出されますよ。

補佐：油断大敵ってことだね。これで一通りかな。それでは課長、最後にビシッと締めて頂戴。

課長：6 年ぶりに財政課に出戻り、いえ、返り咲いたＴ補佐の「昔よりよくなってる」（年寄り）発言が出ましたねえ。確かに、平成 20 年頃の冬の時代に比べると龍ケ崎市の財政は確実によくなっています。でも、係長が言っているように、基金は使えばなくなるし、借金すれば将来負担は増えます。一方、活力あるまちづくりのための事業は進めていかなければならない。

家計に例えると、年収 400 万円の家庭でもベンツは買えます。ただ、その後のローンの返済で日々の食事がもやし炒めばっかりでいいのか。車好きのお父さんはそれでいいかもしれないけど、子どもたちは週 2 日は肉食べたいでしょう。

G員 K：中古の軽自動車でいいから、僕は毎日肉食いたいです。

G員 H：栄養のバランス考えると魚も食べないと。車は 4 人家族だと軽ではちょっとせまいかも…

課長：話がずれましたが、限りある財源をいかに有効に使うかということですね。市民の皆さんのニーズは様々なのでこれがなかなか難しい。「チーム龍ケ崎市」一丸となって、より一層各課との連携を深め、明るい未来を市民の方々に提供できるよう知恵を絞ってがんばろう！

こんなまとめでよろしいでしょうか。

補佐：それじゃ―、早速だけど、財政課の明るい未来を祈願して打ち上げに行こう！

最後までお付き合いいただきまして、ありがとうございました。

詳しい内容は、市公式HP「市政情報」の「財政・各種計画・行政改革」コーナー、「平成 27 年度決算の状況」、「健全化判断比率・資金不足比率」をご覧ください。